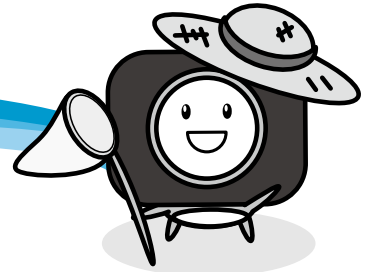


できごと

まちの話題



水戸市公式ブログキャラクター
カメラくん



8/1

～3 第54回水戸黄門まつり

初日は、千波湖畔で、音楽に合わせて打上げるミュージックスターメイン花火や、みとちゃんをかたどった創作花火など、約4,500発が打上げられ、夜空を色鮮やかに染め上げました。

また、2日目・3日目には、市中心部などで、水戸黄門パレード、市民カーニバル、神輿渡御のほか、さまざまなステージイベントなどが開催され、街は大盛り上がり。訪れた多くの観客は、熱気あふれる水戸の夏を楽しんでいました。

7/8

みと弘道館大学 食の安全をおいしく体験

食と安全と暮らしについて学ぶ全4回の講座「食の安全をおいしく体験」。この講座は、水戸好文カレッジで学ぶ「さきがけ塾」の塾生が企画したものです。この日は、学校給食が作られるまでの過程を、学校給食共同調理場で学びました。

「多くの人の手によって、安全な給食が子どもたちに届けられていることが分かった」と話す参加者。最後に全員で、給食の味を久しぶりに味わいました。



星のはなし

第14回
皆既月食



「皆既月食」になる直前の月
(2011年12月撮影)

10月8日(水)の夜、ほぼ全国で皆既月食が見られる。

今回の月食は、欠け始めが午後6時15分頃。月が地球の影にすっぽり入り「皆既」の状態になるのが午後7時25分頃で、約1時間後から再び明るくなっていき、午後9時35分頃にほぼ元の満月に戻る。

前回の皆既月食は2011年12月。この時は、真冬のしかも深夜だったが、今回は秋の夕方。とても見やすい月食と言っていいだろう。

写真は、その2011年12月の月食で、「皆既」になる直前のもの。月食は、地球の影に月が入り込む現象だが、皆既の状態になっても、月は、真っ暗にならない。これは、地球の大気の中を通り屈折した太陽の光が、月を照らして

いるためで、言ってみれば、地球上で、その時刻に朝になっている地域の「朝焼け」の光と、夕方になっている地域の「夕焼け」の光が、月に写っているというわけだ。しかし、満月と比べれば大変暗いので、月が欠けてゆくにつれて、月の近くでも、暗い星まで見えるようになってくる。次第に輝きを増すたくさんの星々とその中に浮かぶ赤銅色の月。それは、大変に幻想的な光景となるはずだ。

太陽と地球と月、そしてはるか彼方に輝く星々。想像を絶する距離感で繰り広げられる「光と影のショー」をたっぷり楽しむことにしよう。

市総合教育研究所
移動天文車指導員 中川 義通